

J.M.A.R.ジャヤラトネ研究員（スリランカ）



アーユーポーワン！こんにちは！私はスリランカから来ましたジャヤラトネと申します。母国のスリランカでは、2008年からスリランカ国防災省の防災センターで早期警戒担当として働いています。

また、防災分野においてスリランカ国と関係各国の関係強化を図るために、関係機関と連携した業務にも携わってきました。これまで、日本を含めて、アメリカ、オーストラリア、イタリア、インド、インドネシアなどを訪問し、防災省で得た知識や経験を共有してき

ました。

スリランカ国内におきましては、過去3年において、洪水、干ばつ、地滑り、サイクロンなどによる多くの被害を受けてきました。特に、皆様の記憶にもあると思いますが、2004年12月に発生したスマトラ島沖地震においては、スリランカにも津波が到達し歴史的にみても最も大きな被害を受けました。この津波災害を契機として、2005年に防災法( Disaster Management Act No.13 of 2005 )が成立され、防災分野における最高意思決定機関として国家防災協議会( NCDM )が設立されました。さらに、私の所属する防災局( DMC )がNCDMの下に設置され、防災施策を先導する実施機関として設立されました。

上記の通り、現在ではDMCがスリランカ国内の防災関連事業を実施する機関としての役割を有しています。例えば、早期警報では関連機関と連携して情報共有を行っています。緊急対策センターでは関連機関の職員が常駐し、自然災害や人的災害への対応を行い、地方自治体や住民に対してリアルタイムで情報の発信を行っています。

周知の通り、日本は多くの災害に関する経験を持っていて、災害後の対応や予防活動などについても十分な知見を持っていると思います。この知識や経験から、ADRCに滞在期間中は、私の研究テーマである津波早期警報の実用性について学びたいと思います。

最後になりますが、今回の機会を頂いたスリランカ政府、ADRCの皆様にお礼を申し上げます。また、他の客員研究員の皆様と学べる機会に感謝を致します。